

環境経営レポート

日本システム開発株式会社
50期（2019年7月1日～2020年6月30日）



®環境省
エコアクション21
認証番号 0000875

2020年9月11日

NSKエコプロジェクト

目次

■計画の策定 (Plan)

1. 組織の概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
 - 3-1 環境理念
 - 3-2 環境方針
 - 3-3 生物多様性保全宣言
4. 環境経営目標
 - 4-1 中期 (3年) 環境目標
 - 4-2 50期 環境目標
5. 環境経営計画
 - 5-1 50期 環境経営計画
 - 5-2 全社向け啓蒙 ポスター (50期環境活動)

■計画の実施 (Do)

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容
 - 6-1 実施体制
 - 6-2 50期の活動記録
 - 6-3 3年間の取組の推移(電力と廃棄物)

■取組状況の確認及び評価 (Check)

7. 50期取組結果とその評価、次年度取組内容
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、違反・起訴等の有無

■全体の評価と見直し (Act)

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 組織の概要

会社名	日本システム開発株式会社
設立	1971年（昭和46年）5月
資本金	1億円
代表者	代表取締役 亀井 政之
社員数	113名（2020年6月末現在）
事業内容	ソフトウェアの開発・販売、旅行業ソリューション
事業所	東京都新宿区歌舞伎町2-4-10 KDX東新宿ビル 電話：03-6302-1371 FAX：03-6302-1391
ホームページ	http://www.nsk.co.jp
事業所データ	KDX東新宿ビル6階 床面積：737.82㎡

2. 対象範囲

認証	登録番号：0000875
登録範囲	全社
レポート対象期間	令和元年7月1日～令和2年6月30日（当社50期）
レポート発行日	令和2年9月11日

3. 環境経営方針

3-1. 環境理念

2010年7月1日
日本システム開発株式会社
代表取締役 亀井 政之

当社は「地球資源が有限であることを認識し、環境保全に永続的に配慮していく」ことを重要経営課題のひとつとし、事業活動と地球環境の調和を目指して全社員が環境問題に積極的に取り組み、この取り組みを継続的に改善していくことで社会の安全と発展に貢献し社会的責任を果たします。

3-2. 環境方針

2011年7月29日
日本システム開発株式会社
代表取締役 亀井 政之

1. 全社員は、資源およびエネルギーの有限性を深く認識し、節約およびリサイクルに積極的に取り組み、環境負荷低減と環境汚染の予防に努めます。
2. 環境マネジメントシステムを構築し、環境目的・環境目標を具体的に設定し、運用、評価、見直しを実施して、継続的な改善に努めます。
3. 環境教育・周知活動を推進し、社員の環境意識の向上を図るとともに、環境方針を社外に公開します。
4. 事業活動にあたって、法規制、条例およびその他の要求事項を遵守します。
5. 当社の事業活動が生物多様性に与える影響を充分把握し、生物多様性の損失を防ぐ「自然共生社会」の実現に向けて取り組みます。
6. 業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進します。

3-3. 生物多様性保全宣言

2011年3月策定
日本システム開発株式会社
代表取締役 亀井 政之

当社の事業活動が生物多様性に与える影響を充分把握し、生物多様性の損失を防ぐ「自然共生社会」の実現に向け、取り組んでまいります。

1. 生物多様性保全を、企業の重要課題のひとつとして捉え、事業計画、企画、開発、設計、製造、試験など、全ての事業活動において、生物多様性への影響を配慮します。
2. 電力等エネルギーの使用、水資源の利用、原材料の調達、化学物質や廃棄物排出などにおいて生物多様性への影響に配慮し、低減に努めます。
3. 顧客、取引先、地域社会、社員などのステークホルダーと連携した生物多様性保全活動を推進します。
4. 生物多様性保全の周知活動を推進し、社員の生物多様性保全への意識向上を図るとともに生物多様性保全宣言を社外に公開します。

4. 環境経営目標

4-1. 中期（3年）環境経営目標

中期（3年）目標（50期：2019年度～52期：2021年度）は以下の通り

2019年8月3日
承認：代表取締役 亀井政之
作成：環境管理責任者 三浦 未知央

●50期：2019年度～52期：2021年度の中期目標

No	環境経営方針	環境目的	環境経営目標(50期～52期)
1	環境負荷の低減と環境汚染の予防	電力使用量の低減	50期 92,000kWh 前年から1ポイント増 51期 94,000kWh 前年から2ポイント増 52期 96,000kWh 前年から2ポイント増 <i>—各年3～8名増による使用電力増を見込む一方で、作業時間の削減努力や節電対策による節電効果も織り込み、各年前年から2ポイント増を想定。</i>
		廃棄物の削減	一般 産廃 循環資源ゴミ 50期 1,900kg 4240kg 1200kg 一般は120kg/月、 産廃は320kg/月+400kg(windows7PC廃棄) 循環は100kg/月で見積もる 51期 1,900kg 3840kg 1200kg 50期と同程度(windows7PC廃棄なし) 52期 1,900kg 3840kg 1200kg 50期と同程度(windows7PC廃棄なし) <i>—一般、循環は各年3～8名増による廃棄量増を見込む一方で、削減対策による削減効果も織り込み、50期と同程度とする。</i>
		作業時間の短縮	50期 平均156hour/month 以下 51期 平均156hour/month 以下 52期 平均156hour/month 以下 <i>—前期と同量、もしくは少なく。</i>
2	教育・啓蒙	教育・啓蒙 広報	52期までの活動として以下を実践する ・環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使ってもらう。毎月8割以上。 ・社員へエコ関連の教育を実施する。 ・当社のEA21活動目標と具体的活動内容を共有する。 ・定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 ・後始末の徹底、プラゴミ削減運動を推進
3	法令遵守	法令遵守	関連法規をチェックし遵守する。
4	生物多様性への配慮	生物多様性保全	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。
5	業務における資源削減、エコ素材推奨	業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進する	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。

●今後の具体的な施策案

- 1) 電力使用量低減に向け、作業時間の削減努力、エアコンの適正な利用管理、不要箇所の消灯の徹底等を実施する。
- 2) 廃棄物については、ペーパーレス化と適切なゴミの分別を徹底していく。
- 3) エコチャレンジシステムの毎月の利用を啓蒙し続ける。
- 4) ポスター、NSKカードで活動目標と具体的活動内容を共有する
- 5) エコ委員会活動を継続し、定期的に社員へ活動報告し、エコ推進を啓蒙する。
- 6) 創立記念式典で、社員へ生物多様性やエコに関連したセミナーを開催する。
- 7) 創立記念式典で、社員へエコ活動結果を報告・共有する。
- 8) お客様の業務効率改善、環境負荷削減を意識したシステムやアイデアを提供、提案する。

4-2. 50期環境経営目標

環境方針	環境目的	環境経営目標
1.環境負荷の低減と 環境汚染の予防	電力使用量の低減	50期目標 92,000kWh (前期比1ポイント増を目標とする)
	一般廃棄物の分別	50期目標 一般廃棄物 1,900kg 循環資源ごみ 1,200kg
	産業廃棄物の 適正廃棄	50期目標 産業廃棄物 4,240kg (50期はwindows7PCの廃棄がある)
	作業時間の短縮	前期と同量、もしくは少なく。 1人平均156hour/month 以下
2.教育・啓蒙	教育・啓蒙・広報	環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使ってもらう。毎月8割以上。社員へエコ関連の教育を実施する。当社のEA21活動目標と具体的活動内容を共有する。定期的にエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する。
3.法令遵守	法令遵守	関連法規をチェックし遵守する。
4.生物多様性への配慮	生物多様性保全	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。
5.業務における資源削減、エコ素材推奨	業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進する	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。



当社作成
「エコチャレンジシステム」

各自がCO2削減目標を設定し、自己評価を行っていくことで、部門別や個人別でのCO2削減量が可視化できます。

5. 環境経営計画

5-1. 50期 環境経営計画

No	環境方針	環境目的	環境目標	実施項目	担当者	2019年 実施計画 (月) 2020年											
						7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
1	環境負荷の低減と環境汚染の予防	電力使用量の低減	50期目標 92,000kWh	以下の実施状況を毎月チェック ・ 昼休み消灯 ・ 非使用場所の消灯 ・ エアコン設定温度 ・ 扇風機の活用 ・ 離席時のディスプレイ消灯 ・ 主電源をこまめにOFF	エコ委員事務局 環境管理責任者	●毎月状況のチェック											
		一般廃棄物の分別	50期目標 一般廃棄物 1,900kg 循環資源ごみ 1,200kg	以下の実施状況を毎月チェック ・ 使い捨て製品の使用や購入抑制 ・ ごみの分別の徹底 ・ 両面・集約印刷とコピー ・ 整理整頓	エコ委員事務局 環境管理責任者	●毎月状況のチェック											
		産業廃棄物の適正廃棄	50期目標 産業廃棄物 4,240kg (50期はwindows7PCの廃棄がある)	廃棄物の廃棄量の把握 廃棄マニフェストの適正管理	エコ委員事務局 環境管理責任者 事務局 環境管理責任者	←→											
		作業時間の短縮	前期と同量、もしくは少なく。 1人平均156hour/month 以下	作業時間の把握 作業の効率化、作業分担の工夫	エコ委員事務局 環境管理責任者 環境管理責任者 部長	←→											
2	教育・啓蒙	教育・啓蒙・広報	環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使ってもらう。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。当社のEA21活動目標と具体的活動内容を共有する。 定期的なエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する	エコチャレンジの利用啓蒙 NSKカード着用確認	エコ委員事務局 環境管理責任者	←→											
				創立記念式典での教育	事務局 環境管理責任者	←→											
				委員会議事録作成と周知・毎月のエコ目標の決定と周知 社員へNSKカード配布、エコポスター一掲示	エコ委員事務局 環境管理責任者 事務局 環境管理責任者	←→											
3	法令遵守	法令遵守	関連法規をチェックし遵守する。	関連法規の改正チェック 定期的な遵守チェック	環境管理責任者	←→											
4	生物多様性への配慮	生物多様性保全	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。	創立記念式典で生物多様性の現状とその保全状況を社員へ周知	事務局 環境管理責任者	←→											
5	業務における資源削減、エコ素材推奨	業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進す	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。	以下の実施状況をチェック ・ 本業においてエコを意識しているか ・ ITシステム・ITソリューション提供による、顧客と社会の環境負荷削減貢献	環境管理責任者	●年2回の状況チェックと呼びかけ											

今期目標を周知し、啓蒙する

50期エコプロジェクト目標

消費電力の削減

昼休み、不要場所の消灯
エアコンの節電（扇風機の活用）
不要時のPCの電源オフ



廃棄物の削減・リサイクル

ごみの分別
両面・集約印刷の推進



労働時間の短縮

作業の効率化
作業分担の工夫



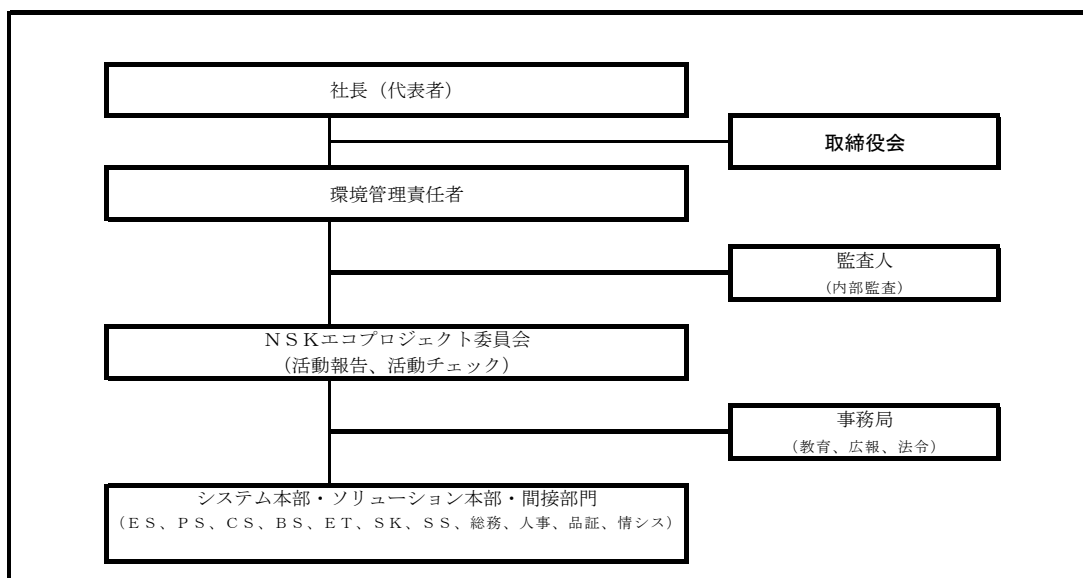
環境省
エコアクション21

日本システム開発 エコプロジェクト

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

6-1. 実施体制

■ 体制 50期(2019年7月～2020年6月)



6-2. 50期の活動記録

エコプロジェクト・作業記録 (50期：2019/07～2020/06)

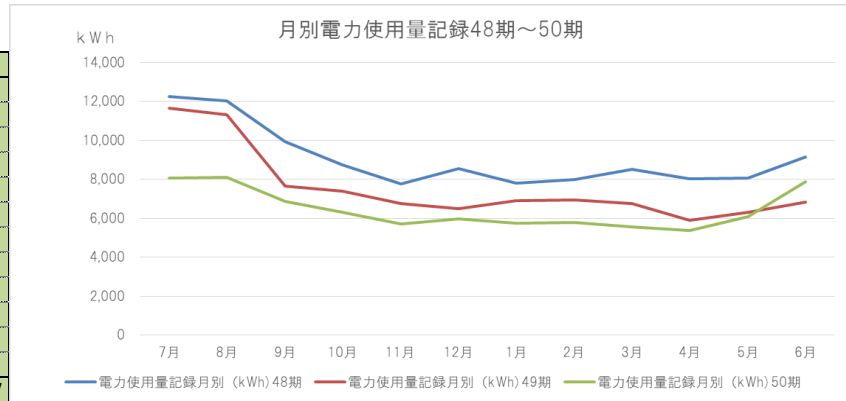
年月日	内容	E A 2 1 対応目的	対象	
2019年7月	49期のデータの集計	計画策定	事務局	
	・環境への取組の自己チェックリスト	〃	〃	
	50期の目標の作成	計画策定	事務局	
	・実施計画	〃	〃	
	・50期エコ委員の選定	〃	〃	
	B C P関連資料、規程類の更新・公開 (7/11)	教育・啓蒙	全社	
	エコプロジェクト会議 議事録公開 (7/16)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局	
2019年8月	自衛消防隊編成・公開 (7/30)	法令順守	全社	
	エコポスター作成・掲示 (7/30)	教育・啓蒙	事務局	
	夏季大掃除 (8/9)	廃棄物	全社	
	エコプロジェクト会議 議事録公開 (8/20)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局	
	2019年9月	環境活動レポート49期作成・公開 (9/3)	教育・啓蒙	事務局
		EA21更新審査 書類作成 (9/3)	教育・啓蒙	事務局
		エコプロジェクト会議 議事録公開 (9/18)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局
50期計画の公表 NSKカード作成・配布 (9/20)		教育・啓蒙	全社	
2019年10月	E A 2 1 現地審査(9/25)	広報	全社	
	エコプロジェクト会議 議事録公開 (10/16)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局	
2019年11月	KDXビル消防避難訓練 (11/13)	法令順守	全社 ⇒ 消火器訓練参加 (新人)	
	エコプロジェクト会議 議事録公開 (11/21)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局	
2019年12月	エコプロジェクト会議 議事録公開 (12/17)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局	
	年末大掃除 (12/27)	廃棄物	全社	
2020年1月	危機管理 緊急時連絡「災害伝言板」訓練実施 (1/15～1/21)	教育・啓蒙	全社	
	エコプロジェクト会議 議事録公開 (1/21)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局	
2020年2月	エコプロジェクト会議 議事録公開 (2/20)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局	
2020年3月	環境法規一覧チェック (3/5)	法令順守	エコプロジェクト委員・事務局	
	エコプロジェクト会議 議事録公開 (3/17)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局	
	E A 2 1 内部監査実施 (3/26)	法令順守	事務局・監査人 (前環境管理責任者)	
2020年4月	新入社員へエコプロジェクトの説明(4/1)	教育・啓蒙	事務局	
	エコプロジェクト会議 議事録公開 (4/21)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局	
2020年5月	エコプロジェクト会議 議事録公開 (5/19)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局	
	クールビズ実施 (5/7～9月末予定)	地球環境への配慮	全社	
	平成31年度産業廃棄物管理票交付等状況報告書届出(5/21)	法令順守	東京都環境局	
2020年6月	エコプロジェクト会議 議事録公開 (6/16)	教育・啓蒙	エコプロジェクト委員・事務局	
	来期計画発表会 (6/19) 電気・廃棄物の報告	啓蒙・教育	全社 (KDX東新宿ビル1階 BATUR TOKYO)	
	生物多様性に関するDVD視聴	〃	〃	

6-3. 3年間の取組の推移（電力と廃棄物）

【電力】

電力使用量記録月別 (kWh)

	48期	49期	50期
7月	12,250	11,655	8,077
8月	12,042	11,301	8,090
9月	9,936	7,640	6,871
10月	8,732	7,395	6,309
11月	7,782	6,768	5,703
12月	8,547	6,504	5,965
1月	7,795	6,922	5,744
2月	7,987	6,938	5,767
3月	8,525	6,763	5,557
4月	8,031	5,884	5,364
5月	8,048	6,311	6,090
6月	9,133	6,841	7,880
合計kWh	108,808	90,922	77,417



前年比 83.6% 85.1%

- * 49期、50期ともに前年より削減できた
- * 50期の夏は気温が低めだったため、空調使用が抑えられた
- * 50期の5月以降は在宅勤務が増え、リモート接続用に電源が常にONになっているPCが多く、電力使用量が増えた

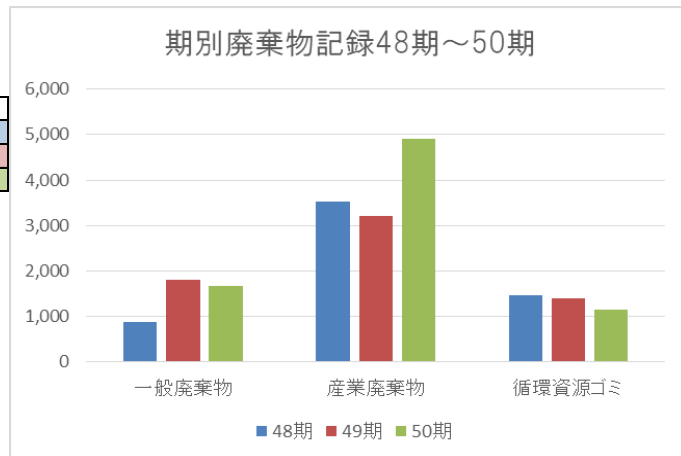
【電力と廃棄物のCO2換算】

	電力 kWh	調整後排出係数 (丸紅)	CO2換算 (kg-CO2)
48期	108,808	0.485	52,771.9
49期	90,922	0.522	47,461.3
50期	77,417	0.542	41,960.0

【廃棄物】

廃棄物記録期別 (kg)

	一般廃棄物	産業廃棄物	循環資源ゴミ
48期	870	3,530	1,477
49期	1,800	3,200	1,410
50期	1,675	4,912	1,160



- * 48～50期については、回収業者からのゴミ回収量の報告に信憑性がない月が何ヶ月もあった（月の回収量が明らかに少なかったり、0kgの月もあった）
- * 49期の循環資源ゴミ（紙）が目標に対し増えてしまったのは、ISMS取得のため大量の書類を処分する必要があったためである
- * 50期の産業廃棄物が増えたのは、Windows7PCの廃棄（リサイクル処理）のためである

7. 50期取組結果とその評価、次年度取組内容

環境方針	環境目的	環境目標	実施項目	環境目標に対する実績と評価	次年度の取組み内容
環境負荷の低減と 環境汚染の予防	電力使用量の低減	92,000kWh以内 (前期比1ポイント増を目標とする)	屋休みの消灯 非使用場所の消灯 エアコンの設定温度の確認 扇風機の活用 離席時、ディスプレイの消灯 主電源をこまめにOFF	77,417kWh 目標達成	80,000kWh以内
	一般廃棄物の分別	一般廃棄物 1,900kg以内 循環資源ごみ 1,200kg以内	使い捨て製品の使用や購入抑制 ごみの分別の徹底 両面・集約印刷とコピー 整理整頓	一般 1,675kg 循環 1,160kg 目標達成	一般廃棄物 1,900kg以内 循環資源ごみ 1,200kg以内
	産業廃棄物の適正廃棄 作業時間の短縮	産業廃棄物 4,240kg以内 (50期はwindows7PCの廃棄がある) 前期と同量、もしくは少なく。 1人平均156hour/month以下	廃棄物の廃棄量の把握 廃棄時に業者に依頼しマニュアルの適正管理 作業の効率化、作業分担の工夫	産廃 4,912kg 目標未達 前期=平均156hour/month 今期=平均150.9hour/month 目標達成	産業廃棄物 4,200kg以内 1人平均156hour/month以下
教育・啓蒙	教育・啓蒙・広報	環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使う。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。 当社のEA21活動目標と具体的な活動内容を共有する。 定期的なエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する	エコチャレンジ利用 創立記念式典 ポスターの掲示 委員会の会議内容を議事録にまとめ、社員に周知 NSKカードの携帯・着用チェック 毎月の活動結果の広報(社内web)	エコチャレンジの利用状況は9割以上 教育・啓蒙は定期的に実施している ポスター 掲示済みを確認した 問題なし 毎月、委員会の会議内容を議事録にまとめ周知している 携帯・着用チェック 実施済みを確認した 社内WEB 掲示済みを確認した 問題なし	環境活動への取組みを『見える化』するシステムを社員に使う。毎月8割以上。 社員へエコ関連の教育を実施する。 当社のEA21活動目標と具体的な活動内容を共有する。 定期的なエコ委員会開催、エコ活動を円滑にするとともに活動状況を共有する。 後始末の徹底、プラごみ削減運動を推進する
法令遵守	法令遵守	関連法規をチェックし遵守する。	関連法規の改正チェック、定期的な遵守チェック	チェックされていることを確認した 問題なし	関連法規をチェックし遵守する。
生物多様性への配慮	生物多様性保全	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。	創立記念式典で、生物多様性教育を実施	創立記念式典での周知を確認した。 問題なし	社員の生物多様性保全に対する意識を向上させる。
業務における資源削減、エコ素材推奨	業務遂行における資源削減、エコ素材推奨を推進する	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。	パッケージソフトを売上げ、顧客のエコに貢献する(自社パッケージを販売することで顧客の業務効率化、資源効率化(ペーパーレス含む)を実現したもののみならず) ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。	クラウドサービスTable 9本 MDSS: 8本 医療系: 6本 問題なし	本業における環境保全への配慮と貢献を意識し、推進する。 ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献する。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、起訴等の有無

環境関連法規の遵守については、社内監査を適正に行っており、違反、訴訟等はありません。

関係当局よりの違反等の指摘も過去3年間ありません。

9. 代表者による全体評価と見直し・指示

2020年9月10日
代表取締役 亀井政之
環境管理責任者 三浦 未知央

○環境経営方針について、見直しと指示

2006年のE A 2 1 認証取得以来、全社員が環境問題に積極的に取り組んでいる。
特に毎月のエコチャレンジ実施により、社員のエコ意識は高く保たれている。今後も続けること。

○環境経営目標及び環境経営計画について、見直しと指示

- 1) 電力使用量については、前期に比べ大幅に削減、目標達成することができた。
Windows7PCの廃棄、整理を行ったことで、電力の削減につながったものと思われる。
今後も不要なPCは増やさず、省エネに努めること。
 - 2) ゴミの廃棄量については、産業廃棄物削減の目標を達成することができなかった。
ゴミ収集時の廃棄量が正確になってきたため、今後は目標設定をより適正に設定できるものと思われる。
プラごみの削減を引き続き指導していく。
 - 3) 作業時間については、例年の削減施策の他、新型コロナウイルス感染予防や緊急事態宣言への対応の結果、前年の作業時間を大きく下回ることになった。在宅勤務により定時退社日などの削減施策がおろそかにならないよう注意して進めていくこと。
 - 4) エコ、生物多様性の教育・啓蒙について
エコ、生物多様性については、例年通り、創立記念式典で全社員に向け教育・啓蒙した。
今後も続けること。
 - 5) 法令遵守
環境関連法規の遵守状況は毎年確認しており、問題なし。
 - 6) 業務における資源削減、エコ素材推奨
ITシステム・ITソリューションの提供を通じ、お客様、社会の環境負荷削減に貢献している。
51期もITシステム・ITソリューション提供に力を入れていく。
- 実施体制について、見直しと指示
現体制で大きな問題なくE A 2 1 の活動をまわしている。毎期、エコ委員の入れ替えがあるため、引継ぎはしっかりすること。